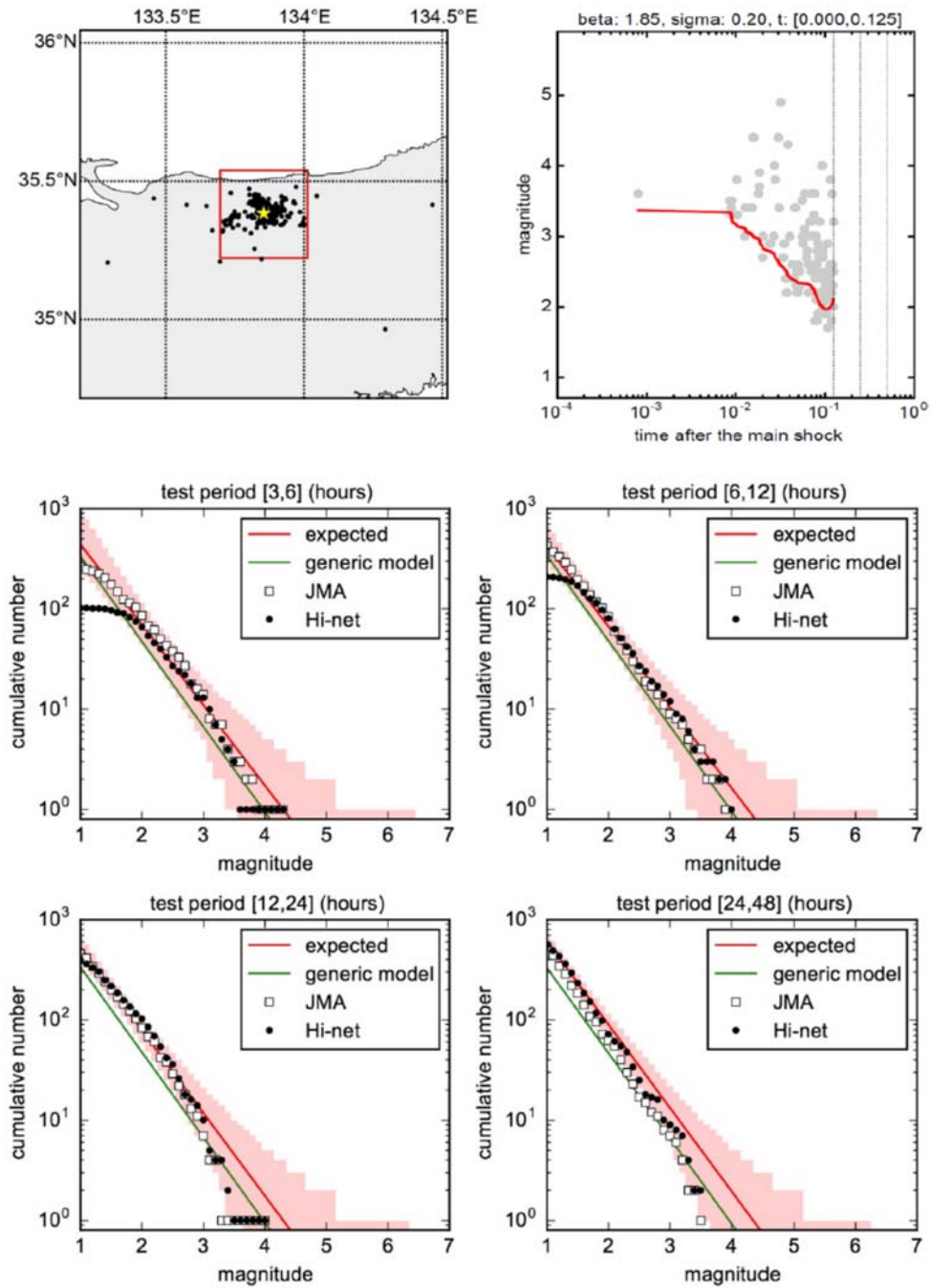


第2図。HIST-ETASモデルによる2016年鳥取県中部の地震(M6.6)の前後の地震活動の空間確率(10x10 km²あたり)の予測の各記入時刻におけるスナップショット。CSEP日本検証センターに提出されたモデルを用いている。



第5図。余震確率のリアルタイム確率予測法³⁾による予測と結果。赤線、およびピンクの領域が Hi-net の自動震源処理カタログ (web version) を用いた期待予測値とその95%信頼区間。予測モデルは大森-宇津則と Gutenberg-Richter 則を用い、パラメータ値は初期の余震のデータ欠損を考慮して推定されている。予測分布はベイズ型予測を用いて求めた。概ね予測分布がその後の JMA データの経験分布と一致している。